遊戯王GX～シンクロ、エクシーズむしろつかいたいわ！！

ランサー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
遊戯王ＧＸ～シンクロ、エクシーズむしろつかいたいわ！！

【Ｎコード】
Ｎ０５２３ＢＡ

【作者名】
ランサー

【あらすじ】
わけもわからず死んでしまい気がついたら……よくある転生ものがたりですが主人公はシンクロもエクシーズは使いませんがアンチではありません。
しかしオリキャラは使うので了承してください。

試験

俺の名前は、秋行人(あきいくと)決闘が大好きなどこにでもいる人間だ、まあそんな俺も変わったことが、あるんだよな……それは俺は転生者だ！！

まあ、二次小説にある転生者に俺はなってしまったのだ、俺は普通に学校の帰り道に歩いていたらなんか
車に引かれた、気がついたら死んで赤ん坊になっていていた、無論、赤ちゃんになっていたから赤ちゃんプレイという羞恥心をうけたをけだが……（汗）

話がそれたな、まあ突然こっちの世界にきたからシンクロやエクシーズなんかもっているはずもなく俺は、この世界にあるカードを集めてデッキを組んだ、デュエルモンスターズについては、この世界は決闘が全てを決める感じなので俺の親は、なんの問題もなく決闘をすることを認めてくれた。

さて、そんな俺も中学の卒業まじか進学先は、もちろん、デュエルアカデミアだ！！

めざせプロ決闘者！！この世界にきたんだから大好きなことに全てを注ぎたいからな！！

そして俺は試験会場にいる。

「次、受験番号！！２０番！！」
どうやら呼ばれたようだ、さていきますか。

「よろしく、お願いします」

「礼儀が、いいな全力でかかってきなさい」
試験官らしき人物にあい互いにデッキをセットする。

「「決闘！！」

行人　４０００

試験官　４０００

「私の先行ドロー」

あ、先行とられた、まあこの世界はやったもん勝ちだからなしょうがないか。

「私は、『デーモン・ソルジャー』を召還」

レベル４

デーモン　・ソルジャー

ＡＴＫ　１９００

「さらに私は『黒いペンダント』を『デーモン　・ソルジャー』に装備して攻撃力を５００ポイントアップさせる。」

デーモン　・ソルジャー

ＡＴＫ　１９００→２４００

「私は、これでターンエンドだ」

試験官

フィールド

デーモン　・ソルジャー→黒いペンダント装備

伏せカード→無し

「俺のターン、ドロー！」

やべ、転生前のデッキならこんな展開、普通だからなんともおもわないんだが、今のデッキはマジできついからな。

今の手札であいつを倒せるカードがないや、仕方ない。

「俺は魔法カード『天使の施し』を発動、デッキからカードを三枚ドローして二枚捨てる。」

俺が施しを使ったら会場が……。

「何だ、手札事故か」

「よく、あんなデッキでよく試験うけたな」

やかましい！施しを馬鹿にするな！！このカードはマジで鬼畜カードなんだからな！！

「手札事故か、そんな決闘では試験は受からないぞ」

あんたもかい！まあこの世界はあまり初手から手札交換を好まないから仕方ないか。それに倒せるカードがなかったのも事実だからな。だけど施しのおかげで倒せるカードでた、まあ直ぐに退場しちゃうけど。

「俺は魔法カード『思い出のブランコ』を発動このカードの効果により俺は墓地に存在する通常モンスターを墓地から特殊召喚します」

「まて墓地にモンスターが存在するはずは……まさか！？」

「そのまさかですよ『天使の施し』で捨てた『ゴキガ・ガガギゴ』を特殊召喚！！」

レベル８

ゴキガ・ガガギゴ

ＡＴＫ　２９５０

周りの観客は驚いていた、どうだ施しなめんなよ、この時代のカー

ドでも墓地肥やしはいきるんだよ！

「俺は『ゴキガ・ガガギゴ』で『デーモン・ソルジャー』を攻撃！！いけ、え～と…バーサーカー・クラッシュ！！」

とりあえず思いついた技名を言って『ゴギガ・ガガギゴ』は言葉にならない雄たけびを上げて『デーモン・ソルジャー』に突進して『デーモン・ソルジャー』は勢いよく吹き飛ばされ塵となった。

試験官　４０００→３４５０

「く・・・・・・やるな」

いちおう倒せたけど。

「カードを一枚伏せてターンを終了しますが『思い出のブランコ』の効果で墓地から特殊召還した『ゴキガ・ガガギゴ』は破壊されます。」

ゴキガ・ガガギゴは塵となって消えた。

行人

フィールド

無し

伏せカード→一枚

「私のターン、ドロー！私は『カイザー・シーホース』を召喚」

レベル４

カイザー・シーホース

ＡＴＫ　１７００

「『カイザー・シーホース』で、ダイレクト・アタック！」

「罠カード発動『攻撃の無力化』このカード効果により相手モンスターの攻撃を無効にして、バトルフェイズを終了させます」

「なら私はカードを一枚伏せて、ターンを終了する。」

試験官

フィールド

カイザー・シーホース

伏せカード↓一枚

「俺のターン、ドロー！」

さて『カイザー・シーホース』は、いけにえをひとつ減らせるからな下手に残すことはできないな。

「俺は『闇魔界の戦士　ダークソード』を召喚」

レベル４

闇魔界の戦士　ダーク・ソード

ＡＴＫ　１８００

「俺は『ダークソード』で『カイザー・シーホース』を攻撃、魔界断空斬（だんくうざん）！！」

『ダーク・ソード』は『カイザー・シーホース』に切りかかる。

「甘い！私は罠カードを発動『炸裂装甲』相手モンスターが攻撃宣言時に発動して攻撃してきたモンスターを破壊する『ダーク・ソード』を破壊！」

『ダーク・ソード』は吹き飛ばされ塵となった、そう簡単に攻撃は決まるわけないか。

「カードを二枚セットして、ターンエンドです」

行人

フィールド

無し

伏せカード→二枚

「私のターン……（ニヤリ）」

いま、ニヤリって笑わなかった！！わかりやすいくらいに！！

「私は『カイザー・シーホース』を生贄にささげ私は『エメラルド・ドラゴン』を召喚！！」

レベル６

エメラルド・ドラゴン

ＡＴＫ　２４００

おい、ニヤリって笑うからすげー強いモンスターかと思ったかエメラルドか！！

だったらなんで、カイザーを得意げにリリースしたんだよ！！

「私は『エメラルド・ドラゴン』でダイレクト・アタック！エメラルド・ファイヤ！」

エメラルド・ドラゴンの炎がこっちにむかってくる！！

「アチ！アッチィな・・おい！！」

行人　４０００→１６００

おいこれ、ソリッドビジョンだよな……なんか熱かったぞ！！

「私は、これで、ターンを終了する」

試験官

フィールド

エメラルド・ドラゴン

「俺のターン、ドロー！」

お……決まったな。

「俺は、魔法カード『死者蘇生』を発動、これにより墓地からモンスターを特殊召喚するぜ！」

「なに！『ゴギガ・ガガギゴ』を召喚するのか！」

いや、まだ召喚しない。

「俺は『闇魔界の戦士　ダークソード』を墓地から召喚！」

レベル４

闇魔界の戦士　ダークソード

ＡＴＫ　１８００

会場から「プレイングミスだな」と呆れられたり馬鹿にされたが、最後までみてからいえ！！

「あせったな、プレイングミスをするとは」

はい、もういいなれた！！

「俺は装備魔法『グレード・ソード』を発動して『ダークソード』に装備」

闇魔界の戦士　ダークソード

ＡＴＫ　１８００→２１００

「それでも攻撃力は届かないぞ」

「いえ、これで逆転しますよ俺は『ダークソード』をリリ…もとい生贄にささげ『バスター・ブレイダー』を召喚だぜ！」

レベル７

バスター・ブレイダー

ＡＴＫ　２６００

「な、なんだと『バスター・ブレイダー』！」

試験官も驚き会場の生徒も驚く、アッチではたいした価値はないがこっちでは違う理由は『バスター・ブレイダー』はキング・オブ決闘者である遊戯が海馬と戦ったレアカードでありメジャーなカードであるため、かなり有名なレアカードとして認識されている。

「だ、だが『バスター・ブレイダー』七つ星のモンスター何故、生贄が一体だけで？」

「『グレード・ソード』の効果です『グレード・ソード』を装備し

たモンスターを生贄にした場合、戦士族の生贄を一体、減らせるんですよ」

てか、試験官ならそれくらいわかれ。

「永続罠、発動『リビングデットの呼び声』俺はこの効果で『ゴギガ・ガガギゴ』を墓地から特殊召喚するぜ！」

レベル８

ゴギガ・ガガギゴ

ＡＴＫ　２９５０

まあ別に、エメラルド召喚したときコイツをだせば、ダメージ受けなかったんだけど念のために発動しなかった、だけどもうリスクはないから派手にいくぜ！

「『バスター・ブレイダー』の効果で相手フィールド上及び相手の墓地に存在するドラゴン族、一体につき攻撃力が３００ポイントアップするぜ！！」

バスター・ブレイダー

ＡＴＫ　２６００→３１００

「行くぜ！『バスター・ブレイダー』で『エメラルド・ドラゴン』を攻撃！竜殺しの剣！！」

試験官　３４５０→２７５０

「ぐ……」

「続けて『ゴギガ・ガガギゴ』でダイレクト・アタック！バーサーカー・クラッシュ！！」

「ぐあああああああ！！」

試験官　２７５０→０

よし何とか勝てたこれでアカデミアに入れるぜ！！

「ありがとうございました！！」

俺はちゃんと頭を下げる。

「試験の結果は後日、届く、いい決闘だったよ」

こうして俺は無事に試験が終了した。

俺は客席に戻ろうとした。

「やあ、受験番号『２０番』」

声をかけられた、声をかけらた相手は三沢大地…ＧＸのエアーマンのあだ名で知られる。

「えーと君は？」

一応、初対面なので知らないふり。

「ああ、すまなかった俺は、三沢大地だ。」

「俺は秋　行人だよろしく」

「君の最後のプレイングはすごかったな、最上級モンスターを1ターンで二対もそろえるとはな」

「いや、たまたまだよ、それに反省する点もあるし『エメラルド・ドラゴン』に攻撃されたとき、『リビングデットの呼び声』を発動すればダメージも受けなかったのに」

試験にうかるために慎重すぎたからな、今度からきをつけないとな。

「確かに、そこは俺も思ったな」

「だろ」

俺はそれから三沢と決闘についての議論をしていたが俺は他の決闘を見て唖然とした。

「俺は『レッド・デーモンズ・ドラゴン』でダイレクト・アタック！！アブソリュート・パワーフォース！！」

レッド・デーモンズを使う決闘者を見てしまい……。

「『ＢＦ－黒槍のブラスト』で攻撃！！」

ＢＦをつかう女性を目撃……。

「な、なんでシンクロ召喚が……」

まさかあの二人は……転生者なのかよ…俺以外にもいたのかよ……

マジでないぜ。

心の声で叫ぶ。

「なんで俺はシンクロが使えないんだあああ！！」

二人との待遇の違いに俺は心の中で叫びまくった。

行人「転生者がトラブルに巻き込まれるのは王道…そんな王道いらん！！」

試験に合格して俺はデュエルアカデミアに入学が決まった。

長い船旅が終わり、ようやく地面に足をつけられた、アカデミア本校に着いたら俺は黄色の制服を渡せられた、どうやら俺は、ラーイエローらしいな試験、まあ実技も筆記も問題なくクリアしたからな、オシリスレッドじゃなくて良かった。

オシリスレッドだったらメザシとたくあんと酷い食事に加えて共同部屋と扱いがふたつの寮と比べて扱いに差がありすぎるからな。

「未来の決闘王を・・・・・・」

校長の長い話し・・・ヤバい眠くなってきた。

そして、ようやく話が終わった・・・さてと寮にいきますか。

ラーイエローの寮に着いた感想は、ペンションみたいだな、部屋の中も悪くない、下手なビジネスホテルより豪華だな、いや高校生が住むには豪華過ぎる気もするんだが。

ラーイエローで、こんなに豪華なんだからオベリスクブルーはどんだけ豪華何だよ（汗）

荷物もまとめたし、まだ歓迎会が始まるまで時間があるし散歩でもするか。

とりあえず寮を出ようとしたら……。

「どけ」

目の前に金髪で長身の男に出くわした……あれ確かコイツどこかで……あ！思い出した！！

「お前！試験でシンクロ使ってたやつ！！」

そうだよコイツ俺の後に決闘して、レモ…もとい！レッド・デーモンズで試験をクリアしたやつだよ、コイツもラーイエローだったんだ。

「ほお俺の実技を見ていたのか、そう俺が選ばれた決闘者！シンクロ召喚とは選ばれたものが使える最強のカードだ！貴様のような凡人にはけして使えん最強のカードだ！！」

うわ！なにコイツまるで自分だけが特別と思ってるのかよ……てか、シンクロ召喚が選ばれたカードって（汗）

「お前も今から身の振り方を考えたほうが懸命だぞ、俺はいずれ決闘王になる男だ最初に話したよしみだ、貴様を俺の荷物持ちに任命してやろう。」

最悪だ！！コイツマジで！！シンクロ召喚ができるからってもうキング気取りかよ。

「悪い俺、知り合いと待ち合わせしてるから、これで！」

俺は居心地が悪くなり直ぐに退散した……え、主人公ならここで立

ち向かうのが普通だろだって？

悪いが俺は、あんなやからに首を突っ込むほど勇気はないから！普通にやり過ごすほうが懸命なのだよ…なにヘタレだと！そうだよ俺はヘタレだよ悪いか！……て、さっきから俺、だれに言ってんだ俺？

まあいいや、歓迎会が始まるまで散歩でもするか。俺は適当に散歩していると…あ、たしかここは決闘場があったよな…なんか忘れてる気がするけど、まあいいや。

「実力さ」

「ふふ、その実力ここで見せて欲しいものだな」

あ、十代と万丈目！と、その取り巻きふたり！！。

「あなた達、何してるの？」

そこに明日香も、現れた・・・不味い俺、なんか巻き込まれるパターンじゃね（汗）

とりあえず退散・・・。

「あ、お前は！『バスター・ブレイダー』を使った２０番！」

取り巻き一号！なに気づいてんの！！

とりあえず・・・・・・・

「あ、あの・・・・・・・ども」

とりあえず営業スマイル。

「だれ？」

「アニキは知らないんすか、ほら実技試験で『バスター・ブレイダー』を使った決闘者っスよ」

翔、説明ありがとう・・・てかかなり有名になってるのね俺。

「『バスター・ブレイダー』を使う決闘者！俺と決闘しようぜ！」

「いや、悪いそろそろ寮の歓迎会が始まるからまた今度な」

それに、このまま巻き込まれるのはごめんだぜ。

「彼の言うとり」

「うわ！」

突然、後ろから銀髪でロングヘアーの女性が現れた。

「歓迎会始まるわよ、早く寮に戻ったら」

「く・・引き上げるぞ！」

万丈目が引き上げると取り巻き達も引きあげた。

やれやれ助かった。

「あなた達、万丈目君の挑発に乗らないことね、アイツらろくでもない連中なんだから」

万丈目・・・お前嫌われてるなお前が好きな明日香に嫌われてるぞ！

「そうか、ありがとう俺、寮に戻るから」

このまま巻き込まれるのは本当にごめんだからな。

俺は急いで寮に戻った。

寮に戻り歓迎会が始まったとにかく感想の一言は……。

「なに、この豪華な食事…（汗）」

うん、学生にだす料理じゃないよ普通にレベル高いと思う料理がだされたから……何回、思ったか知らないがイエローでこれだけ豪華ならブルーはどんだけ豪華なんだよ。

とりあえず歓迎会も終わり、俺は自分の部屋に戻り……。

「なるほど、行人のデッキは通常モンスターを中心としたデッキなのか」

「まあな通常モンスターは召喚のデメリットがないから、俺のデッキの魔法、罠も通常モンスターのサポートカードが大半を占めるか

らな。」

歓迎会が終わり三沢と互いのデッキの構成や決闘に対しての理論を話していた。

「なるほど、行人の話を聞いてあらたな方程式が完成しそうだ」

「俺も三沢の話を聞いて新たな戦略が生み出せそうだよ、ありがとよ」

三沢は満足そうな表情になった、どうやら三沢の知り合いになかなか三沢の話についてこれる人物があまり、いなかったようだ、まあこの世界は、あんまりメタやガチデッキに走る決闘者はいないからな。

三沢は、そんな珍しい決闘者の一人だからな。

それから消灯の時間になりそろそろ…

ピピピ……

だれだよこんな時間に……。

『受験番号２０番…今夜０時に互いのベストカードを賭けて決闘しろ…Ｂｙ雑魚田（ざこた）』

俺もか！！なんでだよ！な・ん・で！！俺も呼ばれとるんや！！なんもしてないだろ俺は！！

まあこのまま断わってもいいがここで断わると後でめんどくさいこ

とになるからな……仕方ない、いくか……やだけど。
俺は仕方なく決闘場にむかう、そこで……
「よう！お前もよばれたのか！」
「あ、『バスター・ブレイダー』の決闘者」
十代と翔に会いました。て、俺はバスター・ブレイダーだけかい！！
「お前もって、ことは…」
「ああ、これから決闘しにいくのさ！」
「そうなのか、俺は秋　行人、お前は？」
「俺は遊城　十代」
「僕は丸藤　翔っス」
とりあえず自己紹介。
そして呼ばれた場所に向かう。
「よく来たな、１１０番」
「へへ、決闘と聞いちゃ来ない理由は、ないぜ」
万丈目と取り巻きふたりが、決闘場にいました。

と、それよりも・・・。

「質問していいか？」

「何だ２０番？」

番号でよぶのか、まあいいや。

「俺は何で呼ばれたの？」

「教えてやる！お前が『バスター・ブレイダー』を持っているからだ！！」

いや『バスター・ブレイダー』を持っているからって…（汗）

「イエローの分際で、伝説の決闘者、武藤遊戯のエースカードを持つなんて生意気なんだよ！」

いや…遊戯のエースカードは、ブラック・マジシャンだから（汗）

「だから、『バスター・ブレイダー』はエリートである俺が持つのがふさわしい！！」

「あ、まあ…うんわかったよ呼ばれた理由」

メガネをかけた取り巻きは、当然のような物言いでデュエルディスクを構える。

余計かも知れないが説明しよう、この世界は遊戯が使ったカードは高いレア度を誇るのだ、だから遊戯が扱う上級モンスターは知名度

も高くオークションに出せば、前の世界と比べものにならないくらい高い値段がつけられる、ちなみにバスター・ブレイダーは海馬との対策で遊戯が入れたカードと知られてるためかなり高い値段で売られてます…まえの世界ならシンクロやエクシーズがメインになって使う人は、少ないけど。

あ、十代と万丈目も始まるみたいだな。

「この雑魚田様が相手をしてもらえるのを光栄におもうんだな！」

……ウザイ。

俺もディスクを構える。

「「決闘！！」」

行人　４０００
雑魚田　４０００

「俺の先行ドロー！俺は『ゴブリン突撃部隊』を召喚だ！」

レベル４

ゴブリン突撃部隊

ＡＴＫ　２３００

「さらに装備魔法『悪魔のくちづけ』を装備してターンエンドだ！」

雑魚田

フィールド

ゴブリン突撃部隊→悪魔のくちづけ装備

伏せカード→無し

「俺のターン！「あなた達何をしてるの！」あら・・・」

そこに明日香と今日出会った、銀髪の女性と金髪の男が現れた。

「この時間の決闘は校則違反よ！」

「いや、天上院君・・・コイツに社会の厳しさを・・・」

万丈目は焦るが十代は・・・

「俺は別に構わないぜ！決闘の続きだ！」

ですよね・・・まあ、分かりきってたことだよ。

「おい！お前の番だ早くしろ！」

「わかってますって、俺のターン、ドロー。俺は『アックス・レイダー』を召喚」

レベル４

アックス・レイダー
ＡＴＫ　１７００
「はん、そんな雑魚モンスターじゃ俺のモンスターは倒せないぜ！」
うるさい…すすめよう。
「俺は手札から速攻魔法『エネミーコントローラー』を発動して俺は『ゴブリン突撃部隊』を守備表示に変更！」
「なに！」
ゴブリン突撃部隊
ＤＥＦ　０
ゴブリンたちはやる気がなくなり突然布団をだして寝た…て！寝るんかい！！
布団…どこからだしたんだ（汗）
「と、とりあえず『アックス・レイダー』で攻撃！」
アックス・レイダーはゴブリンたちに攻撃を仕掛け、ゴブリンは布団に入ったまま吹き飛ばされ塵となる…せめて攻撃されたら起きようよゴブリン（汗）。
「くそ！屑カードの分際で！」

ゴブリン達にたいしてツッコミはなにのね…

「俺はカードを二枚セットしてターンエンド」

行人

フィールド

アックス・レイダー

伏せカード↓二枚

「俺のターン、ドロー俺は速攻魔法『サイクロン』を発動してお前の左の伏せカードを破壊だ！」

突風が俺の伏せカードを吹き飛ばす、俺のミラフォが…（涙）。

「ハハハ！ラーイエローの考えなんてエリートの俺にはお見通しなんだよ！」

悪かったな…てかこの世界にきてからやたらミラフォが不発に終わることが多いんだけど…なんかの呪い。

「更に魔法カード『二重召喚』を発動、俺は通常召喚が二回行える、俺は『ジャイアント・オーク』二体召喚！」

レベル４

ジャイアント・オーク

ＡＴＫ　２２００
レベル４
ジャイアント・オーク
ＡＴＫ　２２００
げ、マジでないわ！
「俺は『ジャイアント・オーク』で『アックス・レイダー』を攻撃！」
アックス・レイダーは殴りとばされた。
行人　４０００→３５００
「もう一体の『ジャイアント・オーク』でダイレクト・アタック！」
「ぐおおお！！」
行人　３５００→１３００
「『ジャイアント・オーク』の効果でバトルフェイズ終了で守備表示になる」
ジャイアント・オーク
ＤＥＦ　０

ジャイアント・オーク
ＤＥＦ　０
「俺はカードを一枚セットして、ターンエンドだ」
雑魚田
フィールド
ジャイアント・オーク
ジャイアント・オーク
伏せカード↓一枚
「俺のターン」
とりあえず…。
「俺は『エルフの剣士』を召喚」
レベル４
エルフの剣士
ＡＴＫ　１４００
普通のエルフの剣士だよ…翻弄じゃない。

「甘いんだよ俺は永続罠『最終突撃命令』を発動して『ジャイアント・オーク』は攻撃表示に戻るぜ！」

ジャイアント・オーク

ＡＴＫ　２２００

ジャイアント・オーク

ＡＴＫ　２２００

どうせ、そうだろうと思った！

「俺は「ガードマンがくるわ！」」

お、どうやらもうそんな時間なのか助かった。

「くそ！おいお前の『バスター・ブレイダー』俺が必ずもらうからな」

そう言って万丈目と一緒に雑魚田は逃げていく、十代は駄々をこねるが翔が無理やりつれてこの場を脱出した。

「全く世話がやけるひとね」

「ほんとガンコね」

明日香と銀髪の女性は呆れていた。金髪の男はイライラしている様

子だった。

「どお、オベリスクブルーの洗礼を受けた感想は？」

「まあまあかな」

「俺は、もう勘弁だ」

さてと転生者に睨まれないうちに。

金髪　Ｓｉｄｅ

本来であるなら俺が、あそこで戦い俺の強さを見せ付けるはずが訳のわからんモブに邪魔されて計画がだいなしだ！くそ！あんなやつ原作にいなっかったはずだろ、しかしシンクロやエクシーズを使う様子はなかった。

どうやらあいつは転生者ではなあいようだ、まあいい問題は、あの銀髪の女だあいつは俺と同じ転生者のようだ、俺の邪魔はさせんぞ！！俺はハーレムキングになる男だ！そうおれ木村剣（きむらつるぎ）がこの世界に来たときからこれは決まっていることなのだ！！

金髪　Ｓｉｄｅ　ＯＵＴ

銀髪　Ｓｉｄｅ

十代と別に決闘していた彼は何者かしら、特に変わった決闘はしていなかったけど…何かが引っかかるわね、まあすでに私やあの金髪

がいる時点で原作とかけ離れてるから、大しておどろかないわ。

でもあのボウヤは別ね彼は、この世界の人間とはちょっと違う感じがするのよね私と同じ転生者かしら？

まあいいわ学園にいる間は出会う機会は、いくらでもあるし出会う機会があれば聞きましょう。この春風雪（はるかぜゆき）を楽しませてね…ボウヤ。

銀髪Ｓｉｄｅ　ＯＵＴ

行人　Ｓｉｄｅ

ゾクッ！！

な、なんか寒気が…まあなんとか切り抜けた、まあ特別な決闘してなかったから俺が転生者とは、あの二人は気がついてないだろ、あいつら二人が来たから俺がそこらへんにいるモブに見せる振る舞いをしたんだからな、銀髪の女はわからないが、あの男ににらまれたら悪いことしかおきそうにないからな。

とりあえず、シンクロやエクシーズを持たない俺が、あの二人どう対処するか考えないとな。

行人　Ｓｉｄｅ　ＯＵＴ

オリキャラ紹介1（前書き）

ネタばれあり！

オリキャラ紹介1

秋　行人

この小説の主人公。突然、死んでしまいなぜか遊戯王の世界に転生してしまった、シンクロやエクシーズを持っていないのでＧＸの時代のカードしかもっていない。原作ブレイクなど考えていないが、この世界でプロ決闘者になりたいとは思っている。

しかし自分以外にも転生者がいることをしり二人とは待遇の違いに嫉妬することもある。

性格は面倒事に巻き込まれることを嫌う性格で意外と猫をかぶるしたたかな性格をしているが決闘のことになると年相応の少年の性格になる。

デッキ　ビートデッキ…他不明。増える予定。

ルックス　中の中、つまり普通。

木村　剣

転生者、神様に願いシンクロやエクシーズを使えるようにしたＧＸの世界で原作ブレイクを起こして、この世界のハーレムキングになることが野望である、性格はとにかく自分が特別、自分が最強と思っている傲慢な性格。

行人をモブキャラと思っており転生者と気づいていない。

デッキ　ジャックと同じパワーデッキ

ルックス　イケメン

春風　雪

木村と同じ転生者、前の世界では雑誌にのるほどのコスプレイヤーでありお色気キャラのコスプレをしていた人物、転生したが別に原作ブレイクなど考えていない。

学生とは思えない大人びた色気や巨乳で入学初日で告白されたが本人は「興味がない」と切り伏せた。

性格、クールで落ち着いた雰囲気の冷静な性格。

デッキ　ＢＦデッキ

ルックス　美人

行人「コピーデッキが邪道！？コピーデッキはデッキを作るのに参考になる！」

行人「何でコピーデッキは批判されるの？」

作者「何でだろうね、世界中の決闘者を探せば自分と似てるデッキなんかいっぱいあるのに」

行人「コピーデッキが邪道！？コピーデッキはデッキを作るのに参考になる！」

原作ブレイク？なにそれおいしいの？見たいな俺、秋　行人です。

そんな俺もデュエルアカデミアに入学して一週間以上が経過した、一週間もたてば、グループも作りつるむ人間ができるものだ、俺は基本はラーイエローなのか三沢と一緒にいることが多い、他に三沢と一緒にいることが多いため十代達といることもある。

他は……。

「もう一年生の大体のデッキを把握したのかよ神楽坂」

「ああ、でもやっぱり遊城十代のヒーローデッキだけは、把握できないどうして、最後にあんなにまわるんだ！！」

そう、コピーデッキの神楽坂である、実技決闘の授業のときに決闘して、そこからつるむようになった理由、俺が負けたから決闘で、説明…神楽坂、先行、モンスター守備、伏せる…俺、適当にモンスター守備、神楽坂、スキドレ発動、バルバ、ガンナー召喚、そこからフルボコ…おしまい。

まあ、そこから神楽坂と決闘したが何故か勝った神楽坂は批判された……理由は。

ーーーコピーデッキなんか邪道だ！！ーーー

ーーー自分のデッキで勝負しろよーーー

ーーーコピーして恥ずかしくないのーーー

見たいに批判されまくり、てかやはりここの世界の決闘者はおかしいだろ、基本世界中見渡せばコピーと批判してるやつらのデッキだってデッキ構造が似てるやつもあるんだから、コピーデッキを批判する資格はないとおもうんだが……ちなみに神楽坂のあのスキドレデッキもコピーデッキだったから批判されたみたいだ。

「まあ、そこは十代だからとしか…（汗）」

「何故なんだ！！」

うん…基本、遊戯王の主人公のドロー運は半端ないからな遊戯とか十代とか遊星とか歴代主人公や主要キャラはドロー運がすごいのなんの…特に十代は、手札ゼロからバブルマン、壷、施しとの三連ドローソースのカードを当てるドローの申し子みたいなことを普通にやるから恐ろしい。

「とりあえず、晩飯の時間だから食堂にいこうぜ」

「そうだな」

とりあえず俺達は晩飯の時間になったので食堂にむかう。

イエロー寮に戻ろうとしたら…。

「邪道デッキを使う神楽坂ではないか」

メタボ体質の背の低いブルー男子が、現れた。

「コピーデッキなんて使う決闘者の恥さらしが、なぜ僕の前にいるどきたまえ」

明らかに神楽坂を馬鹿にしてる口調…てかコピーデッキを馬鹿にするなコピーデッキはデッキを改良するさいに参考になるんだぞ！！

神楽坂は悔しそうな表情になってる。

「おい！いくら何でも言って良い事と悪い事があるぜ！！」

普段は面倒事に巻き込まれるのは御免だが、しかし親友を馬鹿にされて黙ってるほど俺は人間出来ちゃいないんだよ！。

「ふん、イエローの分際で僕に逆らうの？」

「悪いが友達を馬鹿にされて黙ってるほど俺は人間出来ちゃいないんでな！」

「君みたいな馬鹿なイエローは僕が倒してあげるよ、さあ決闘だ！」

「上等！」

俺とメタボは互いにデュエルディスクを構える。

「お、おいやめろよ行人ブルー相手に」

「なに言ってんだ心配いらないぜ」

神楽坂は止めるが俺はとまらないデッキをセットする。

「「決闘！」」

行人４０００
メタボ４０００

「僕の先行ドロー」

また先行をとられた…やっぱりこの世界の先行は早いもん勝ちなあんだな。

「僕は『白魔導士ピケル』を攻撃表示で召喚」

レベル４

白魔導士ピケル

ＡＴＫ　１２００

「や、やっぱりかわいいよピケルたん」

ハアハアしてピケルを見てやがる！

なんかピケルもイヤそうな表情にっているのは気のせいかな。

「僕は、これでターンエンド。」

メタボ

フィールド

白魔導士ピケル

伏せカード→無し

伏せカードは無しか…攻撃を誘ってるのか、それともただの馬鹿なのか。

「俺のターンドロ！俺は『アックス・レイダー』を召喚」

レベル４

アックス・レイダー

ＡＴＫ　１７００

「バトル！『アックス・レイダー』で『ピケル』を攻撃！アックススラッシュ！」

アックス・レイダーがピケルに攻撃を仕掛けるとピケルはおびえた目でこっちを見る…いや、これは決闘だから、そんな目で見ないで！！

そしてピケルは破壊された涙目で…。

メタボ４０００→３５００

「僕のかわいいピケルたんをよくも！！」

……無視しよう。

「俺はカードを二枚セットして、ターンエンドだ。」

行人

フィールド

アックス・レイダー

伏せカード↓二枚

「僕のターン、ドロー！僕は『お注射天使　リリー』を召喚」

レベル３

お注射天使　リリー

ＡＴＫ　４００

今度はリリーかよ。

「ハアハア、ナース天使…それも良い。」

……うん無視だ。

後ろを向いたら、なんか神楽坂も引いてるメタボに。

「『お注射天使　リリー』で『アックス・レイダー』を攻撃！」

リリーがアックス・レイダーに向かってくる

「僕はリリーたんの効果を発動、リリーたんは戦闘を行うダメージ計算時に一度だけ２０００ポイントライフを払って攻撃力を３０００ポイントアップする」

メタボ３５００→１５００

お注射天使　リリー

ＡＴＫ　４００→３４００

リリーの注射がアックス・レイダーに刺さりアックス・レイダーは苦しみながら消滅する、何を注射したんだ？リリー（汗）。

行人４０００→２４００

「僕はカードを一枚セットして、ターンエンド。」

メタボ

フィールド

お注射天使　リリー

伏せカード→一枚

「俺のターン！」

さてと…この前、購買部で購入したカードを試しますか！

「俺は罠カード『強欲な瓶』を発動、カードを一枚ドロー！」

よし派手に行くぜ！

「魔法カード『高等儀式術』を発動！このカードは手札の儀式モンスターを選択して、そのレベルの合計が同じになるように自分のデッキから通常モンスターを墓地へ送り儀式モンスターを特殊召喚する俺は『ゴギガ・ガガギゴ』を墓地に送り『カオス・ソルジャー』を手札から特殊召喚するぜ！」

レベル８

カオス・ソルジャー

ＡＴＫ　３０００

「こ、攻撃力３０００！！」

「行くぜ『カオス・ソルジャー』で『お注射天使リリー』を攻撃！カオスブレード！」

「ふふふ、甘い僕は罠カード『聖なるバリア　ミラーフォース』これでモンス「俺はこれにチェーンして『盗賊の七つ道具』を発動！ライフを１０００払い罠カードの発動を無効にする！！」そんな！！」

行人２４００→１４００

メタボ１５００→０

決闘に勝利してソリッドビジョンは消える。

「くそ！覚えていろ！」

メタボは捨て台詞をはき逃げるように退散した。

「なんだ、あの台詞」

「その、ありがとよ行人、俺なんかのために」

「いいよ、何かあいつの言い分に腹が立ったからよ、それより早く食堂に行こうぜ」

「ああ！！」

こうしてブルーとの決闘に勝利した俺だが、このあとめんどくさい事に巻き込まれるとは想像もしなかった。

行人「プライドだけが以上に高い人間に勝つと後がめんどくさい」（前書き）

行人「アニメや二次小説でＧＸのブルーの生徒達は」

ブルー「プライドだけが、以上に高く」

行人「勝つと後がメンドクサイ奴が多くてかなわん」

行人「プライドだけが以上に高い人間に勝つと後がめんどくさい」

さてと…今日も問題なく平和な日じょ…「「大変だ行人！！」」起きませんでした…（汗）。

何だよ神楽坂、三沢せっかく授業が終わって楽しい自由時間が始まったのに…。

「どったの？三沢、神楽坂？」

「「廊下を見てみろ！！」」

とりあえず俺は廊下に出で見ると…。

「イエローの秋　行人はどこにいる！！」

「ででこい！！」

ブルー生徒の集団が俺の名前を連呼して、叫んでいた…え、なにコレ……（汗）。

「ブルーの奴ら何で俺の事、さがしてんの？（汗）」

「おい行人、お前、ブルーの奴らに恨まれることしたのか？」

「いや、実に覚えが…（汗）」

三沢…俺は基本的に面倒事に巻き込まれるのは御免なんだ、だから、からまれたら面倒なブルーの奴らに恨まれる事なんか…。

「なあ、行人」

神楽坂が俺に声をかけた。

「なんだ？」

「ひょっとして、昨日の決闘が原因じゃないか」

「……あ！？」

そういえば…昨日の晩、神楽坂に絡んできたメタボ体系のブルー生徒と決闘して俺は勝ったんだ…もしかして、その仕返しか？

それにしちゃあ…人数多くない（汗）…十人以上いるよな。

「どうしよう…（汗）」

「どうするも決闘するしか、ないだろ」

「無茶いうなよ三沢！十人以上いるんだぞ！体力もたねーよ！！」

はあ…こんな事ならあのメタボと決闘しなきゃよかった（涙）。

「見つけたぞ！」

「やべ！」

ブルーのやつらに見つかった！当然…俺は！！

「戦略的撤退！！」

「「「マテやコラ！！」」」

ヤーさん顔負けの表情で俺を追いかけてくる…畜生！！ブルーは何でこんなにプライドが高いんだ！！

……十分後。

「ぜえ…ぜえ…しつこい……。」

「俺達と決闘しろ…ぜえ…ぜえ…」

「そうだ…ぜえ…ぜえ…」

あれから逃げ回ったが結局、振り切れず…決闘場に追い詰められた…。

「あのさ…一応、聞くけど俺、何かしたかあんたらに？」

無駄だと思うが聞いてみる。

「それはお前がイエローの癖にブルーである我らに勝ったからだ！」

どうせ、そうだと思ったよ…（汗）

「新入生のお前に教えてやる！ブルーである我らは、この学園のエリートだ、そんな我らにイエローである貴様がブルーである我らに勝つなんてマグレだ！マグレであることを今日、証明してやる！！」

要するにイエローである俺がブルー生徒にしてみれば事が気に入らないわけね。

まったく……下手にプライドだけ高い奴らが多いんだからブルーは…イエローの俺でコレだけの仕打ちだし、レッドの生徒がブルーに勝ったらどうなるんだ（汗）。

「さあ決闘しろ！イエロー！」

「わかりましたよ…（汗）」

逃げ出せる雰囲気じゃないよな…仕方ない決闘するしかない、俺はデュエルディスクにデッキをセットする。

「「決闘！！」」

行人４０００
ブルー４０００

「俺の先行ドロー！」

毎度、おなじみ先行早いもの勝ち…（汗）

「俺は『魔導戦士ブレイカー』を召喚！」

レベル４

魔導戦士ブレイカー

ＡＴＫ　１６００

「このカードの召喚に成功で魔力カウンターを一つ置いて攻撃力を３００ポイントアップするぜ。」

魔導戦士ブレイカー

魔力カウンター　０→１

ＡＴＫ　１６００→１９００

「カードを一枚セットしてターンエンドだ」

ブルー

フィールド

魔導戦士ブレイカー

伏せカード→一枚

「俺は魔法カード『手札抹殺』を発動して互いのプレイヤーは捨てた枚数分カードをドローする！」

「何だ、手札事故か？」

そうだよ！悪いか！…ち、またかよ

「更に『天使の施し』を発動、カードを三枚ドローして二枚捨てる」

「また手札交換、よほど手札が悪いみたいだな」

しょうがないじゃん手札が悪いんだから！…お！さっきと手札の相性が１８０度違ういけるぜ！

「俺は『クィーズ・ナイト』を召喚」

レベル４

クィーズ・ナイト

ＡＴＫ　１５００

「は！そんな雑魚に何ができるんだよ！」

はあ…なんで、この世界の決闘者って最初の攻撃力だけで判断するんだろう。まあいいや気にしないで続けよ…。

「更に俺は『二重召喚』を発動してもう一度通常召喚を行い俺は『キングス・ナイト』を召喚！」

レベル４

キングス・ナイト

ＡＴＫ　１６００

「そして『キングス・ナイト』の効果発動、このカードが召喚に成功して自分フィールドに『クィーズ・ナイト』が存在する場合、デッキから『ジャックス・ナイト』を特殊召喚できる！現れろ！『ジャックス・ナイト』！」

レベル５

ジャックス・ナイト

ＡＴＫ　１９００

「わ、１ターンで三対も展開した！？」

いや…コレくらいで驚くなよって言うのもあれだな…俺の前の環境だと１ターンでモンスターゾーン埋めるのも驚かないからな、いや上級モンスターの大量展開なんて日常茶飯事だったし。

「続けて！俺は永続魔法『連合軍』を発動！このカード効果により自分フィールドに存在する戦士族・魔法使い族の攻撃力は１体につき攻撃力が２００ポイントアップする、いま俺のフィールドにいる戦士族は三体だ、よって攻撃力は６００ポイントアップだ！」

クィーズ・ナイト　ＡＴＫ　１５００→２１００

キングス・ナイト　ＡＴＫ　１６００→２２００

ジャックス・ナイト　ＡＴＫ　１９００→２５００

「なに！」

俺の出した攻撃力に驚いてる様子だな。

「『クィーズ・ナイト』で『魔導戦士ブレイカー』を攻撃！クィーン・ザ・スペード！」

まるで、どこかのシャッフルみたいな技名だなクィーズ・ナイトが魔導戦士ブレイカーに切りかかる。

「く！俺は罠カード『攻撃の無力化』を発動して攻撃を無効にして、バトルフェイズを終了させる。」

「ならカードを一枚セットして、ターンを終了させる。」

行人

フィールド

クィーズ・ナイト

キングス・ナイト

ジャックス・ナイト

連合軍（永続魔法）

伏せカード↓一枚

「くそ俺のターン、ドロー俺は『強欲な壷』を発動してカード二枚ドロー…（ニヤリ）」

何か笑ったな…キーカードでも引いたのか？

「ははは！直ぐにその雑魚を破壊してやるよ！」

雑魚雑魚、言ってるけどナイト達は遊戯もデッキに入れてるからなわかって言ってるのかなブルー。

「俺は『魔導戦士ブレイカー』を生贄にささげて『偉大魔獣ガーゼット』を召喚！」

レベル６

偉大魔獣ガーゼット

ＡＴＫ　０

「『ガーゼット』の効果を発動だ、このカードの攻撃力は生贄にささげたモンスターの攻撃力の倍になるぜ！よって『ガーゼット』の攻撃力は３８００だぜ！」

偉大魔獣ガーゼット

ＡＴＫ　０→３２００

「どうしてだ！どうして！３２００なんだ！」

ガーゼットの攻撃力に疑問に思っているブルー生徒…ガーゼットの効果を間違えてる、それにプレイングミスもしてるし。

「あのな『偉大魔獣ガーゼット』の効果は生贄にしたモンスターの元々の攻撃力の倍になるのが本来の効果だ、つまり『魔導戦士ブレイカー』の攻撃力は１６００、だからその倍で３２００…お解かり？」

それに、何でリリースする前にブレイカーの効果を使わなかったんだ？。

「黙れイエローの分際で！だが『ガーゼット』の攻撃力は３２００だ貴様の雑魚モンスターを倒すには十分だ！いけ！『偉大魔獣ガーゼット』で『クィーンズ・ナイト』を攻撃だ！」

「…く」

行人４０００→２９００

「お前の雑魚モンスターが破壊されたから『連合軍』の効果も下がるぜ」

キングス・ナイト　ＡＴＫ　２２００→２０００

ジャックス・ナイト　２５００→２３００

「俺はコレでターンエンドだ」

ブルー

フィールド

偉大魔獣ガーゼット

伏せカード↓無し

「俺のターン、ドロー」

ち、キーカードが現われねえ…。

「俺は『ジャックス・ナイト』と『キングス・ナイト』を守備表示に変更する」

ジャックス・ナイト

ＤＥＦ　１０００

キングス・ナイト

ＤＥＦ　１４００

「カードを一枚セットして、ターンエンドだ。」

行人

フィールド

キングス・ナイト

ジャックス・ナイト

連合軍（永続魔法）

伏せカード→一枚

「俺のターン！ドロー、勢いは最初だけだったな！イエロー！」

まあ優勢だったのが劣勢に変わることは決闘によくあることだ、あんまり気にしないでおこう。

「俺は『昆虫装甲騎士』を召喚！」

レベル４

昆虫装甲騎士

ＡＴＫ　１９００

昆虫装甲騎士…ひょっとしてコイツのデッキ、全て高攻撃力で埋まってるデッキなのか？

「俺は『昆虫装甲騎士』で『キングス・ナイト』を攻撃！」

昆虫装甲騎士、キングス・ナイトに襲いかかる。

「この瞬間、速攻魔法発動『頼もしき守護者』！このカードは表側表示のモンスター一体の守備力を、ターン終了時まで７００ポイントアップできる、俺は『キングス・ナイト』の守備力を７００ポイント、上げる！」

キングス・ナイト

ＤＥＦ　１４００→２１００

「ち、しぶといやつだ」

ブルー４０００→３８００

「なら、俺は『偉大魔獣ガーゼット』で『ジャックス・ナイト』を攻撃だ！」

ジャックス・ナイトはガーゼットに吹き飛ばされ塵となり消えた。

「『連合軍』の効果は、また下がるぜ」

キングス・ナイト

ＡＴＫ　２０００→１８００

「カードを４枚セットしてコレで、ターンを終了する」

ブルー

フィールド

偉大魔獣ガーゼット

昆虫装甲騎士

伏せカード→４枚

「俺のターン！俺は『強欲な壷』を発動！カードを二枚ドロー！」

お…来た！だけど、この誘いにのってくれるかな？

「俺は魔法カード『苦渋の選択』を発動！デッキからカードを五枚選び相手に見せ、相手はその中から一枚を選択する、俺が選ぶのは、このカードだ！」

魂の解放
カオス・ソルジャー
ゴギガ・ガガギゴ
バスターブレイダー
死者蘇生

「まあ…エリートである俺の勝ちに変わりはないが念のためだ俺は『魂の解放』を選択する」

よし！誘いにのってくれた！

「ありがとよ、俺の欲しいカードを選択してくれて」

「そんな使えないカードを選択して何が出来る」

いや…使えるんだよコレがな

「俺は魔法カード『魂の解放』を発動、互いのプレイヤーは五枚まで墓のカードを除外する！」

「何を意味のないことを…」

ブルーのやつらが呆れてる様子だが…度肝をぬかせてやるぜ！

「俺は罠カード『異次元からの帰還』を発動、ライフを半分払いゲームから除外されてる自分のモンスターを可能な限り自分フィールドに特殊召喚する」

行人２９００→１４５０

「除外されてるモンスター・・・まさかさっきの『魂の解放』！」

「そうだよ、俺が除外したのは全部モンスターだ！！」

異次元トンネルから、クィーズ・ナイト、ジャックス・ナイト、バスター・ブレイダー、ゴギガ・ガガギゴが現われた。

ゴギガ・ガガギゴ

ＡＴＫ　２９５０

バスター・ブレイダー

ＡＴＫ　２６００

クィーズ・ナイト

ＡＴＫ　１５００

ジャックス・ナイト

ＡＴＫ　１９００

一体だけ仲間はずれだが…舞台は整った！

「『連合軍』の効果で『ゴギガ・ガガギゴ』以外の戦士族の攻撃力は８００ポイントアップだ。」

バスター・ブレイダー

ＡＴＫ　２６００→３４００

キングス・ナイト

ＡＴＫ　１６００→２４００

ジャックス・ナイト

ＡＴＫ　１９００→２７００

クィーズ・ナイト

ＡＴＫ　１５００→２３００

「く！（だが安心しろ俺の四枚の伏せカードは全部、攻撃反応型だ俺の勝利に揺るぎはない！）」

「ここで俺は魔法カード『ハリケーン』を発動！全フィールドの伏せカードを持ち主の手札に戻す」

巨大な竜巻が発生して、周りの伏せカードが吹き飛ばされる。

「なんだと！！」

「あれだけ豪快に伏せて俺が警戒してないと思ったか？」

まあ…あれだけ一気に伏せたら警戒しないほうがおかしいだろ。

「『バスター・ブレイダー』で『ガーゼット』を攻撃！破壊剣一線！」

「ぐあああ！」

ブルー３８００→３６００

「『ゴギガ・ガガギゴ』で『昆虫装甲騎士』に攻撃！バーサーカー・クラッシュ！」

ブルー３６００→２５５０

「続けてナイト達で一斉攻撃！ロイヤルストレートフラッシュ！！」

「うわあああああ！！」

ブルー２５５０→０

決闘が終わりソリッドビジョンが消える。

「く、今の決闘はマグレだ調子にのるなよ！！」

「そうだマグレなんだ！！」

「今回は調子が悪かったんだ！！」

ブルーの連中は捨て台詞を言って逃げ出す…てかブルーもうブルーの連中ににらまれるのはごめんだよ、次からは気をつけないとな…さて寮に帰ろう。

雪　Ｓｉｄｅ

ふふふ、やっぱり面白いボウヤ、たまたまブルーの男子生徒に追いかけられてるのを見かけたから尾行してみたらブルーの生徒と決闘してた…この時代は、あまり墓地肥やしを使う決闘者は、いないわ、でも彼は思いついた用ではなく、それを当たり前のように使っていたわ、やっぱり私の勘どおりボウヤは、この世界の住人とは違う感じがしたのは正解だったわ…この学園の楽しみが増えたわ、ボウヤ…月一の試験を楽しみにしててね。

雪　Ｓｉｄｅ　ＯＵＴ

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0523ba/

遊戯王GX～シンクロ、エクシーズむしろつかいたいわ！！

2012年1月11日00時45分発行